

技術情報

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

ヒメトビウンカの防除について

近年、ヒメトビウンカの保毒虫率が増加しており、本年春季の保毒虫率は8.4%に達しました（平成21年5月29日付け速報第3号）。本種の密度も増加していることから、本種が媒介するイネ縞葉枯病が増加傾向にあり、8月下旬には本病の発病株率が38%に達したほ場も見られました。

ヒメトビウンカは多くの薬剤に対して抵抗性が発達しており、薬剤のみで密度低下を図るのは困難です。またヒメトビウンカは、稲の刈株やイネ科雑草、枯草等の株元で越冬しますが、越冬虫が罹病イネからイネ縞葉枯病ウイルスを獲得し、保毒虫率が高くなる原因となります。このため、発生後の薬剤防除のみでなく、越冬前からほ場耕起等耕種的防除も含めた防除対策を総合的に推進するよう指導願います。

1 発生状況

水稻定期巡回調査ほ場におけるヒメトビウンカの発生ほ場率、発生量はどちらも前年・平年より多かった（図1、図2）。また8月5半旬における発生量は、移植時期が早い地域ほど多い傾向であった（図3）。

2 防除上注意すべき事項

- （1）ヒメトビウンカの越冬虫密度を減らすとともに、本種の感染源となる再生株の発生を防止するため、麦類や野菜類の後作がない場合でも、水稻収穫後ただちに耕起を行う。なお、ほ場耕起後イネ科雑草が発生した場合、春季までに再度耕起を行い、越冬源を絶つ。
- （2）ヒメトビウンカの発生量が多い地域では特に耕起を徹底する。
- （3）イネ科雑草が繁茂している畦畔については越冬場所となるので草刈りを行う。
- （4）福岡管区气象台発表の九州北部地方の3か月予報及び寒候期予報（いずれも9月24日付）によると、平均気温は高いと予想されており、本種越冬虫の生存率が高くなると考えられる。

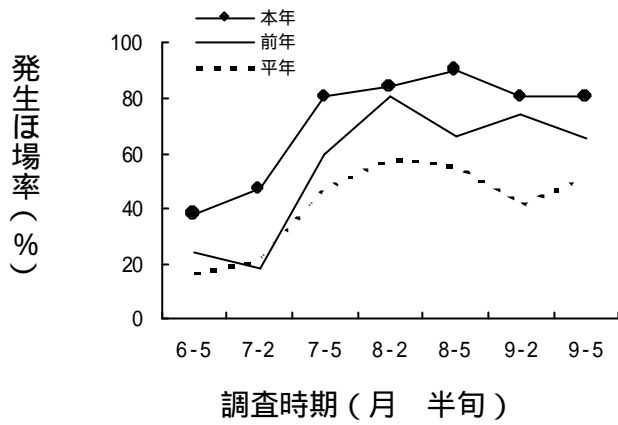


図1 普通期水稲におけるヒメトビウンカ発生ほ場率の推移

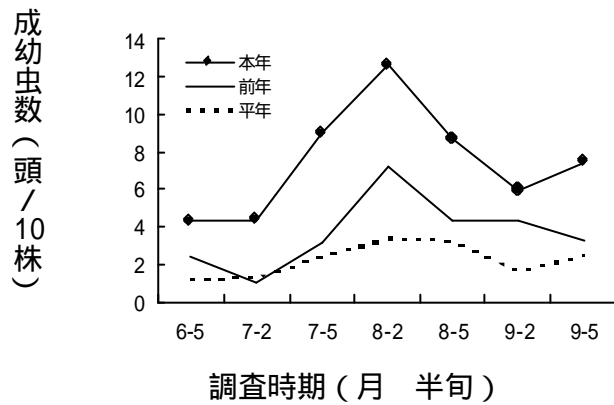


図2 普通期水稲におけるヒメトビウンカの発生推移

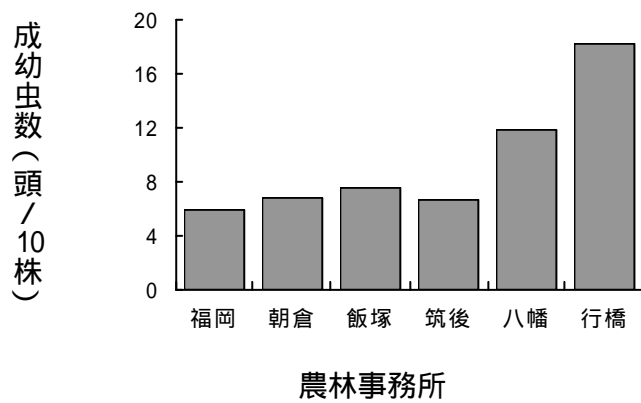


図3 普通期水稲におけるヒメトビウンカの発生密度の地域間差 (平成21年8月5半旬)